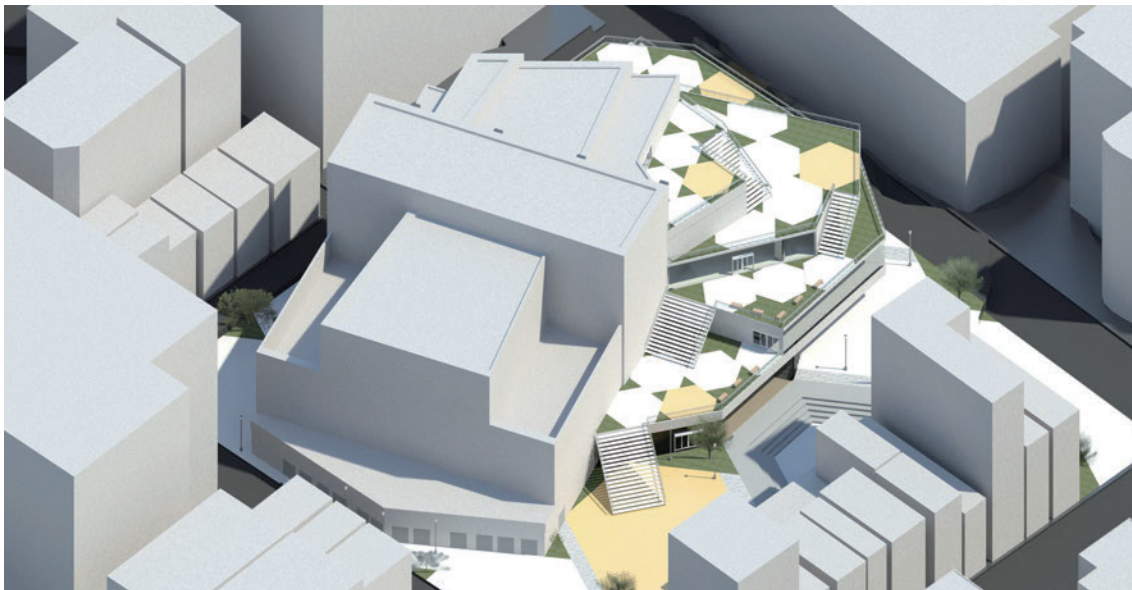


音だまり



今村 天哉
八尾研究室

□プログラム

学生の街やスポーツの街などいろいろな文化や人が集まる御茶ノ水。

そんな御茶ノ水は昔から楽器の街とイメージが定着しており、多くのアーティストや音楽家に愛された街である。だが近年インターネット通販の普及や利便性によって近年楽器目的に訪れる人は少なくなり、駅前に多くの楽器店が並んでいるにもかかわらず賑わいが薄れている。そこでわたしはこの御茶ノ水のロックやジャズなどの多様な楽器たちを演奏できる用に市が建てるものとして設計をした。

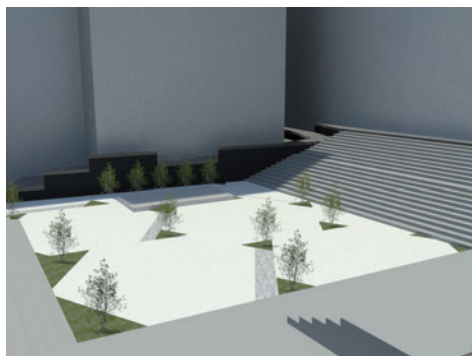
楽器の街が演奏という場を持つことによって音楽の街へと成るような提案をした。

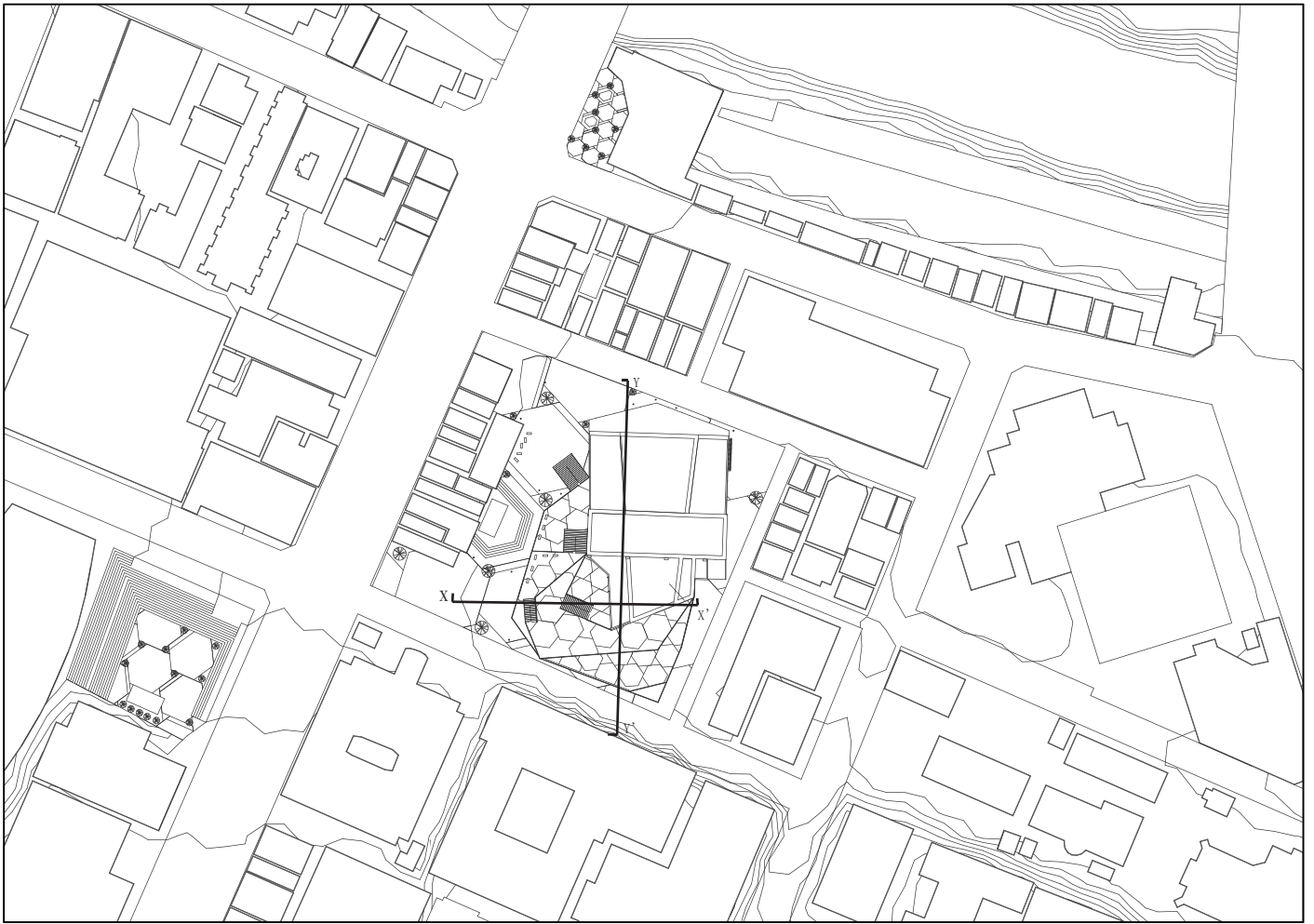


□コンセプト

今回のコンセプトはひびき、たまるものです。音楽は時には人の心にまで響きかけてくような影響力があります。響かせるのは楽器でありその演奏は音となって壁を突き抜け人の耳に届けさせます。私はその音楽を響かせるための場所とそれに影響され、集まってくる人のたまり場を提案し設計しました。

演奏のできる場所を私は音だまりと命名し、その場所を敷地内だけでなく既存の広場まで伸ばし、計画地一体音楽で賑わうように設計しました。

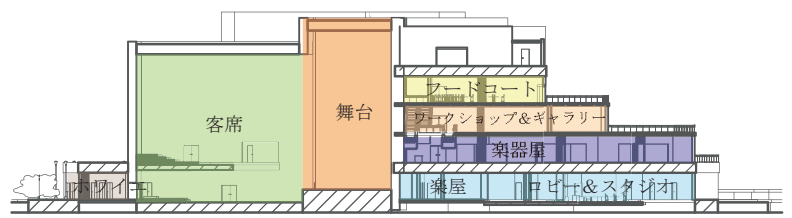




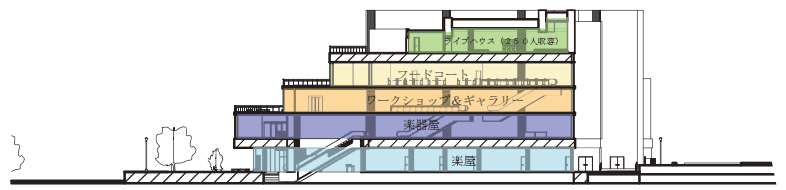
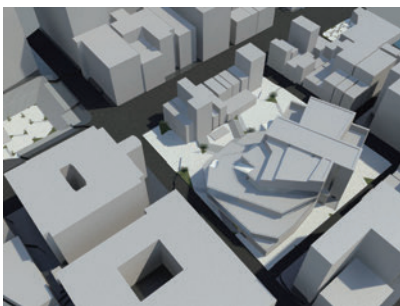
□デザイン

音が中央から波のように広がり、それを受け止めるのが多角形が合い、それを中心にデザインした。

それをつなげてたり重ねたりすることで多方面に音が響き渡るようにデザインをした。



Y-Y'



X-X'